

震災1周年で祈念行事

復興への決意新たに

東日本大震災から1周年となる3月、本学では追悼式やシンポジウム、フォーラムなどさまざまな行事が相次いで開催された。学生・教職員の3分の1が被災した大学として、鎮魂の祈りを捧げるとともに、復興に向けた決意を新たにしました。

●追悼式

「教育の使命」果たす 坂田学長が哀悼の辞



19日は本学と石巻専修大学育友会、石巻専修大学同窓会との共催による追悼式が森口記念館で行われた。坂田隆学長、日高義博専修大学理事長をはじめとする大学関係者、遺族、来賓ら20人を含む多くの参加者のもと、犠牲者の冥福を祈った。写真。本学では在学生6人、入学予定者1人、同窓生7人、在学生のご父母ら8人が亡くなった。坂田学長は追悼の言葉の中で「震災後、普通の人生の終幕が、とても貴重だ。

追悼式が森口記念館で行われた。坂田隆学長、日高義博専修大学理事長をはじめとする大学関係者、遺族、来賓ら20人を含む多くの参加者のもと、犠牲者の冥福を祈った。写真。本学では在学生6人、入学予定者1人、同窓生7人、在学生のご父母ら8人が亡くなった。坂田学長は追悼の言葉の中で「震災後、普通の人生の終幕が、とても貴重だ。

坂田学長、日高理事長ら出席 祈念モニュメント 除幕式

19日、正面玄関前で「祈念モニュメント」の除幕式も行われた(本紙第498号既報)。これは彫刻家・久保健史氏が「雲」をコンセプトに制作したもので、作品名は「Un-mirage car」に設置された。

共創研究センター主催 シンポジウム

「共生社会をめざして」 講演、活発な意見交換

17、18の両日は、本学に延べ約210人が出席。共創研究センター(センター長相馬弘理理工学部教授)主催のシンポジウムが5301教室で開催された。写真。共生社会をめざして」をテーマとしたこのシンポジウム

る講演と、本学の教員10人による研究プロジェクトの紹介が行われ、活発な意見交換も行われた。講演は、専修大学社会性開発研究センター/社会関係資本研究センターの原田博夫代表(専修大学経済学部教授)らが、研究・調査の結果を踏まえ、復興を見据えた意見を述べた。



●大震災復興記録集を刊行 記念フォーラムを開催

新宿・紀伊國屋特別展に出席



3月19日には刊行を記念したフォーラムが本学学生ホールで開かれ、経営学部のゼミ生、ボランティアサークルの学生が活動を発表した。また、報告書に使用された写真などが、東京の紀伊國屋書店・新宿本店で開催中の「特別企画3・11 あの日の記憶 石巻からの報告」(4月5〜20日)に展示されている。写真。報告書は写真やレポートのほか、学生・教職員の体験談も掲載されており、当時の様子を克明に記している。

津波ですべて失った 東北大にヨット寄贈



専修大学ヨット部(柄部に1月末、1艇(47)は、東日本大震災で練習艇など全ヨット(17艇)が流された東北大ヨット部は東北大OBの山本憲一(0級)を贈った。「東北の雄」と呼ばれる東北大ヨット部の監督は宮城県名取市の閉上浜で練習中だったが、押し寄せた津波から逃げ切り、犠牲者は出なかった。3月11日、東北大ヨット部の部員17人とOB1人は宮城県名取市の閉上浜で練習中だったが、押し寄せた津波から逃げ切り、犠牲者は出なかった。

東北大ヨット部にメッセージを書き込む専大メンバー

た。しかし、宮城郡の七ヶ浜町の合宿所はヨットとともにすべて無くなっていた。専大ヨット部は、藤沢市の江の島ヨットハーバーを拠点にしており、昨夏は14人が活動。震災後他大学からヨットの寄贈を受け、活動を再開した東北大ヨット部が6月、江の島に遠征した際に両大学の交流が始まった。ヤマハ発動機に勤務する柄澤・専大監督は震災当日、出張で福島県いわき市のいわきサンマリナーにいた。「津波でボートやヨットが次々と流されて沈んでいく姿を目の当たりにし、復興支援に役立ちたいと思っていました。部員たちも同じ気持ちです」と話す。山本・東北大監督は乗

っていた車ごと流され、窓を割って脱出。その体験を基に「命を守るクルマ」の研究に着手している。「海の仲間たちは危険な時に助け合うシーマンシップによって結ばれている。津波で失ったものはたくさんあるが、ヨット仲間の温かいご支援と絆によって、真のヨットマンシップを知った」と語った。



専修大関係者も見学に来訪した。写真。図書館では一日から30日まで、関連資料300点を公開する企画展「東日本大震災」を図書館資料から知る」を開いた。19日には日高理事長ら、専修大関係者も見学に来訪した。写真。

「科学で東北を盛り上げるイオンモール石巻上げ隊!@石巻」(主で催され、本学大学開催)やまた「科学の放せんター」長の若月昇花咲く」プロジェクト、理工学部教授らと学生ト)が3月17日、石巻たちが「防災学習すごろく」を出展。子供たちから関心を集めていた。同センターでは今後防災教育に関する展示物やテキストを、出前授業や展示に活用していく。

子供たちの関心を集めた「防災学習すごろく」



「科学で東北を盛り上げるイオンモール石巻上げ隊!@石巻」(主で催され、本学大学開催)やまた「科学の放せんター」長の若月昇花咲く」プロジェクト、理工学部教授らと学生ト)が3月17日、石巻たちが「防災学習すごろく」を出展。子供たちから関心を集めていた。同センターでは今後防災教育に関する展示物やテキストを、出前授業や展示に活用していく。

「科学で東北を盛り上げるイオンモール石巻上げ隊!@石巻」(主で催され、本学大学開催)やまた「科学の放せんター」長の若月昇花咲く」プロジェクト、理工学部教授らと学生ト)が3月17日、石巻たちが「防災学習すごろく」を出展。子供たちから関心を集めていた。同センターでは今後防災教育に関する展示物やテキストを、出前授業や展示に活用していく。

子供たちから関心を集めた「防災学習すごろく」

若月理工学部教授、学生らが「防災学習すごろく」を出展

「科学で東北を盛り上げるイオンモール石巻上げ隊!@石巻」(主で催され、本学大学開催)やまた「科学の放せんター」長の若月昇花咲く」プロジェクト、理工学部教授らと学生ト)が3月17日、石巻たちが「防災学習すごろく」を出展。子供たちから関心を集めていた。同センターでは今後防災教育に関する展示物やテキストを、出前授業や展示に活用していく。

「科学で東北を盛り上げるイオンモール石巻上げ隊!@石巻」(主で催され、本学大学開催)やまた「科学の放せんター」長の若月昇花咲く」プロジェクト、理工学部教授らと学生ト)が3月17日、石巻たちが「防災学習すごろく」を出展。子供たちから関心を集めていた。同センターでは今後防災教育に関する展示物やテキストを、出前授業や展示に活用していく。

料理教室を開催

経営・山崎ゼミ生が参加者の託児に協力

本学と日本家政学会は今後10年間、家政学の視点から仮設住宅の生活再建について調査・研究と支援を行う「東日本大震災日本家政学会生活研究プロジェクト」を立ち上げた。プロジェクトの一環として3月31日、仮設南境第4団地集会所で料理教室が開催され、宮城県の郷土料理を同学会の会員と住民が一緒に調理した。本学からは経営学部の山崎泰央ゼミの学生が協力し、参加者の託児を兼ねた「ここにこひろば」を開設した。

料理教室を開催 経営・山崎ゼミ生が参加者の託児に協力 本学と日本家政学会は今後10年間、家政学の視点から仮設住宅の生活再建について調査・研究と支援を行う「東日本大震災日本家政学会生活研究プロジェクト」を立ち上げた。プロジェクトの一環として3月31日、仮設南境第4団地集会所で料理教室が開催され、宮城県の郷土料理を同学会の会員と住民が一緒に調理した。本学からは経営学部の山崎泰央ゼミの学生が協力し、参加者の託児を兼ねた「ここにこひろば」を開設した。

料理教室を開催 経営・山崎ゼミ生が参加者の託児に協力